



〈新刊紹介〉大西猪之介教授著「伊太利亜の族」ト
「囚はれたる経済學」, 附福田徳三博士著「経済學研究」合巻

左右田, 喜一郎

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 28(4):462-464

(Issue Date)

1920-04

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053180>



新刊紹介

大西猪之介教授著「伊太利亞の旅」ト
「囚はれたる經濟學」、附福田德三博士
著「經濟學研究」合卷

法學博士 左右田喜一郎

日本經濟學界ノ鬼才大西君頃者書ヲ著ハス。

一ニ曰ハク「伊太利亞の旅」、二ニ曰ハク「囚はれたる經濟學」ト。

一ハ美ノ國、アコガレノ國、伊太利ヲ通ジテ歐洲文明ニ對スル一ノ透徹セル批評ヲ試ミントシ、他ハ經濟學認識論ヲ題材トシテ著者ノ哲學思想ヲ開展セントス。其ノ目ザス處ニ多少ノ差異ハアリトシテモ、著者ガ之ニヨリテ把握セントシタル所ハ、共ニ滯歐數年其ノ文明ノ依ツテ來ル所、其ノ思想ノ湧キ出ヅル源ヲ探ラントシタル努力ノ結果ナルニ於テ其ノ揆ヲ一ニス。日本經濟學界ハ歐洲文明一般並ニ其ノ一タル學問

トシテノ經濟學ガ、大西君ノ頭腦ヲ通ジテ如何ニ解釋セラレタルカヲ知ラントスルニ於テ少カラザル興味ヲ有ス。二著ハ此ノ目的ノ爲メニ遺憾ナク材料ヲ提供シタルモノトイフベシ。

先ヅ「伊太利亞の旅」ヲ讀了シテ得タル余ノ感想ヲ卒直ニ茲ニイフコトヲ許サルレバ、著者ハ一個ノ文明ヲ考察スルニ際シ、餘リニ智的解釋ニ待ツコト多キニ過ギザリシカトノ疑問ヲ抱カシメシコト是ナリ。是或ハ「總テヲ解スルニ依ツテ總テヲ許ス」立場ニ立タントシタル著者ノ用意ニ對シ充分ニ酬ハレタルモノトシテ著者或ハ自ラ満足スベシ。只歐洲文明ノ批評ヲ聞カントスル吾等ニハ此ノ凡テヲ許ス態度ハヤガテ著者ガ一個ノ單純ナル Aufklärer ナリ、一個ノ懷疑論者タルニ終ルモノト思ハシムルノ遺憾ハ即チアラシ。人アツテ滯歐諸年後漸ク其ノ文明ヲ迎フルニ異國情調ヲ以テスルノ感止マントスル時、飜ツテ其ノ時以前ノ感想ヲ喚起スルコトアリトスベクンバ而シテ何物カヲ題材トシテ

其ノ人亦同ジク其ノ「伊太利亞の旅」ヲ書クノ機會アリトスベクンバ、恐クハ大西君ノ新著ト略々同様ノ述作アリ得ベキナラント思ハシムルハ、云フマデモナク是大西君ノ所謂「總テヲ許ス」立場ガ必ズ如何ナル眞面目ナル研究者ト雖モ一度ハ通過セザルベカラザル懷疑ノ時代ヲ意味スルモノナルコトヲ語ルニハアラザルカ。余亦大西君ノ「伊太利亞の旅」ヲ讀ンデ謂ハハ餘所事ナラザルノ感ヲ抱キタルコトハ余自身ニトツテ少カラザル興味ヲ覺エザルヲ得ザリシ所以ナリト雖モ、著者大西君恐クハ本書ヲ以テ到底單ニ歐洲留學ノ一記念物トスルニ止メテ、終ニハ此ノ書ニ開展セラレタル思想ノ裡ニ永久ニ安住ノ愉快ヲ貪ルコト能ハザラン。一個ノ文明ヲ評スルニ當テ、主トシテ智的解釋ニノミ待ツモノハ、畢竟總テヲ許ス寛容ハ是アラン、而カモ一ヲ探ツテ他ヲ顧ミザルノ熱ハ湧カズ。此ノ熱ナク此ノ力ナキハ批評ノ透徹ニ遺憾ナキヲ得ザル點ナルベシ。文明批評ハ科學ニアラズ。ペー

と「うえん」ハ分析スベカラズ、ろだんハ記述スベカラズ。「人年若ウシテ訪フベキノ國」伊太利亞ハ考フベキノ國ニアラズ、感ズベキノ國ナリ。何人カアツテ愛人ノ私語ニ論理ノ糸ヲ手繰ルベキ「伊太利亞の旅」ノ著者ハ才人、惜シムラクハ力ナシ。

熱ナクシテれもん花咲ク伊太利亞ヲ訪ハントスルハ、論理ノ峻嚴ナクシテ獨乙ニ入ラントスルニ等シ。才人大西君伊太利亞ノ文明ヲ味ハンニハ智アマリニ敏ク、獨乙ノ論理ヲ解センニハ情操アマリニ繁シ。「囚はれたる經濟學」一篇卷頭ヨリ卷尾ニ至ルマデ其ノ題名ヨリシテ既ニアマリニ「伊太利亞の旅」的ナルニ過グ。一ハ心ヲ以テスベキニ頭腦ヲ以テセントシ、他ハ頭腦ヲ以テスベキニ心ヲ以テセントス。恐クハ是著者ガ何等の結論ニ到達スルヲ得ザリシ所以ナルベシ。只著者ガ此ノ二近著ノ中ニ表明シタル智識ノ該博、情操ノ豊富ニ至ツテハ日本經濟學界ニアツテ全ク比儔ヲ見出シ難シ。麗筆ヲ驅ツテ

歐洲文明ノ趨勢、思想ノ歸趣ヲ舉グルコト誠ニ縱橫無盡、例ヘバ一際目ダツ美々シキ装ヒノ若武者ガ馬ヲ陣頭ニ進メテ東奔西走、寄セ來ル敵ノ唯眞中ニ突キ入リテ左ニ掃ヒ右ニ薙ギ立ツルノ面影アリ。凡手到底及ブベカラズ。絢爛華麗誠ニ一代ノ才人タルニ恥デズ。

繼ツテ新刊福田德三博士ノ「經濟學研究」合卷ヲ手ニスレバ、とますだきの論一篇装ヒヲ新ニシテ舊知ノ如ク余ノ面前ニアリ。之ヲ大西君ノ二近著ニ比ス。其ノ對照ノアマリニ大ナルニ驚嘆セシメラル。今日ノ福田博士ヲ以テ今日ノ大西教授ニ比ス。人ハ其ノ對比ノ不倫ヲ稱スルノ恐アルベシ。而モとますだきの論ノ稿者タル福田德三氏ト「囚はれたる經濟學」ノ著者タル大西猪之介氏トヲ對較スルヲ得ルハ共ニ滯歐數年苦心ノ結果タル學術的產物ノ創造者タルニ於テ其ノ趣ヲ同ウスルモノアレバナリ。而シテ二者實ニ兩氏ノ學風ノ差點ヲ示スモノナルト同時ニ、又時代ノ變遷ヲ明瞭ニ指示スルモノトイフベシ。

福田博士ノ今日我ガ日本經濟學界ニ於ケル重

要、地位ハ、事アマリニ周知ニ過ギタリ。而カモ余ヲシテ極言ヲ許サシムレバ、とますだきの論一篇以外福田博士ノ手ニヨツテ我學界ニ提供セラレタル數百ノ卓越セル諸論文ニシテ、一朝ニ焚書ノ暴虐ニ遭フコト是アリトスルモ、唯一篇ノとますだきの論アツテ吾等ニ殘サル、ナラバ、吾等ハ永久ニ日本經濟學史上ノ少カラザル頁數ヲ埋ムベキ福田德三ノ名ヲ後昆ニ傳フルヲ過ラザルヲ得ベキナリ。とますだきの論、絢爛ト稱スベキ筆致ハナク、華麗トイハルベキ情操ハナシ。唯明治年間ニ於ケル我ガ經濟學界ガ產出シタル殆ンド唯一ノ學術的論文ノ典型ヲ稱サルベキ或モノハ即チ是アリ。茲ニ若キ經濟學徒アツテ、とますだきの論ニ讀ミ入ツテ其處ニ何者カラ擷ミ得タランニハ、其ノ人既ニ學問ノ何タルカラ解シ、學問ヲ樂シムノ境地ニ入り得タルモノトイフコトヲ得ベシ。とますだきの論文ノ稿者ヲ有シ得ルハ誠ニ日本經濟學界ノ誇リトスベシ。今裝ヒヲ新ニシテ更ニ世ニ出ヅ。之ヲ手ニスルニ於テ本論初メテ世ニ出デタルノ當時ヲ追憶シ感慨眞ニ無量ナリ。(九、三、一一)